

## 令和3年度立川市立第三小学校の児童数

1年生	99名
2年生	92名
3年生	102名
4年生	78名
5年生	99名
6年生	93名
<b>合計</b>	<b>563名</b>

今年度も三小は17学級  
(児童数は増加)

## 今年度の学校経営方針①

### 教育方針

グローバル時代を生きる  
知徳体のバランスのとれた子どもの育成

- ①国語科研究を通して、学力向上
- ②GIGAスクール(タブレットの活用)
- ③教科担任制
- ④市民科教科化へ
- ⑤SDGs
- ⑥多文化共生

## 今年度 三小の校内研究

- ①国語科研究を通して、学力向上
  - 昨年度2月の体育科の研究発表  
⇒都教委から表彰・一輪車を10台プレゼントされる
  - 知徳体のうち、これまで  
・道徳研究3年間(心の教育)=**徳**
  - 体育研究3年間=**体**
  - 今年度は**知**=学力の向上を(国語科の研究)
  - 読解力の向上・書く力
  - 授業中に対話的、協働的な学びを(自分の考えを根拠をもつて説明して、意見を交流させ、納得解を目指す)。
- ⇒高学年での教科担任制も研究

## 今年度学校経営方針②

### ②GIGAスクール(タブレットの活用)

- ・一人一台配布タブレットの活用(授業での活用、休校時の活用)  
⇒協同的な学習とのバランスを大切
- ・個別学習も大切  
・プログラミング学習  
・ネットエチケット(子供たちを守る)
- ・情報の真偽  
※コロナ禍での会議
- ・タブレットと対話的な授業でハイブリッド型を

### ③教科担任制

- ・2022年度から本格実施→三小は前倒しで  
「小学校5・6年生で開始(3人の担任が、「体育」「社会」「家庭科」を教科担任
- ・音楽、図工、英語、理科も専科
- ・担任が行う授業は「国語」「道徳」「特活」「総合」→一日の半分以上は、専科の授業
- ・メリット: ①教師の専門性を生かし、より「わかる」「できること」  
「楽しい」授業ができる②学年全体(学校全体で)、  
子供たちを見守り、指導ができる③教師の負担が減る  
(教材研究)
- ・デメリット: 時間割を組むのが非常に大変(人的配置が必要)

### ④市民科教科化へーその1ー

- ・バケツ稻(5年)やサツマイモ(2年)など、農業体験は市民科の中核
- ・お隣との取り組み(3年)
- ・福祉体験活動(4年)
- ・地域探検(1・2年生)→3年の錦町学習
- ・外國語での市民科「THIS IS MY TOWN」タブレットを活用して、わが町立川を「バンナムのアスリート」に発信
- ・ヤコ救出、多摩川、昔体験
- ・各教科で市民科の視点で活動をとらえてみる(例:社会科6年「地方自治」→立川市の便益の期待するものは?)
- ・小中連携活動: 校区音楽会、挨拶運動、外国語

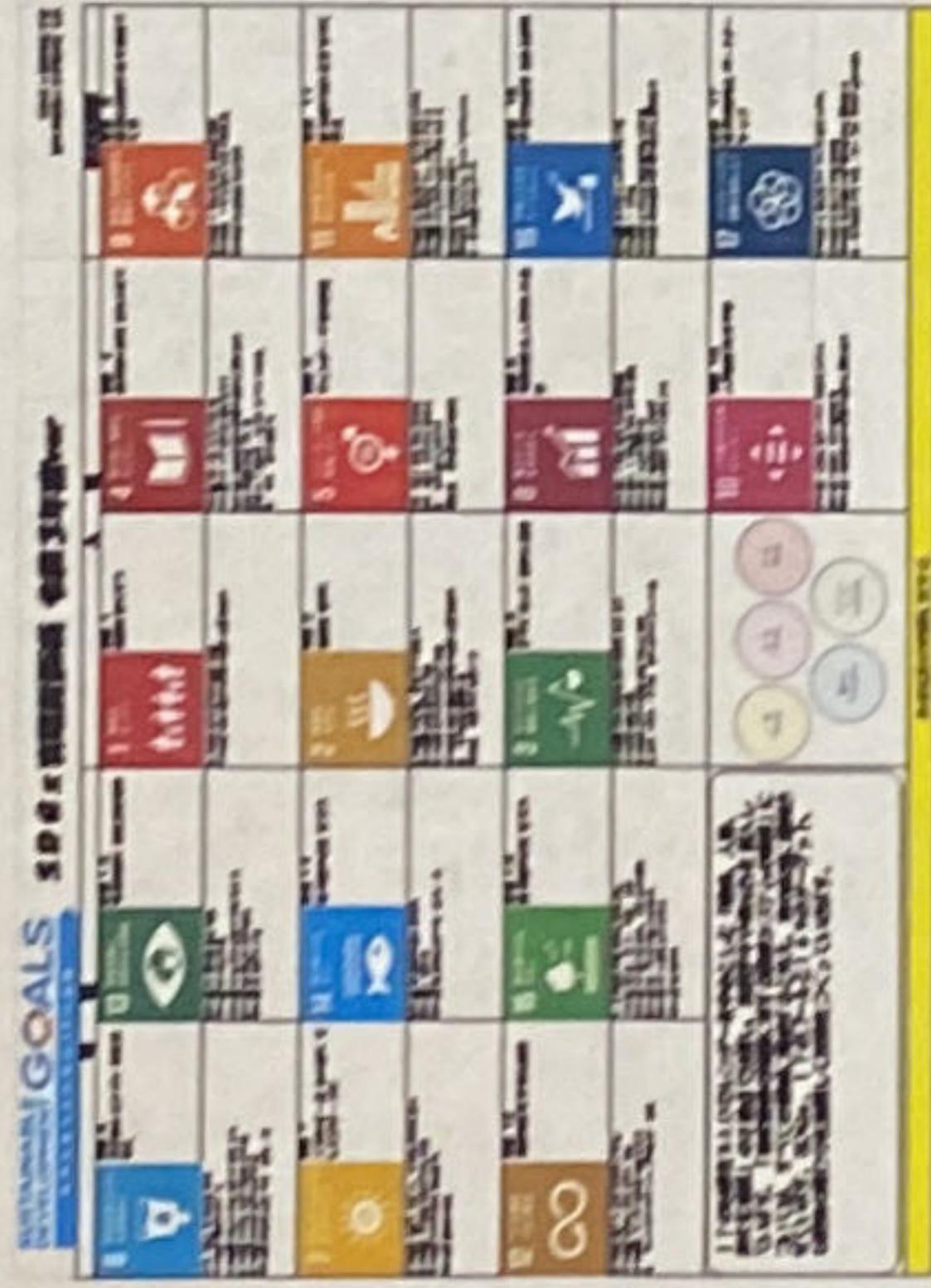
### ④市民科教科化へーその2ー

- ・STEAM教育
- ・◎ART: 造形・美術教育=図工専科を中心に行進⇒校内を三小美術館に
- ・市民科とコラボし、地元商店街に児童作品を展示させていただき、元気を発信  
(現在市川米店、三田花店、たましん錦町支店、未来センター、五十番、五本指ノックス、吾妻米店、北島麹店…今年度中に20店舗までいけば…)
- ・◎理数教育=算数少人数、吉岡先生・田尻先生による理科教育、ICT教育

### ⑤SDGs

- ・SDGs(Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標)
- ・誰一人取り残さない
- ・持続可能な、地球にやさしい教育活動:  
三小の農業体験⇒市民科との関連
- ・もつたしない(給食残菜を減らす)
- ・質の高い教育を! →教科担任制による教員の専門性を活かした指導=中学校との接続、児童の興味関心を喚起)

## 第三小学校 SDGs計画表



## ⑥多文化共生

- 多文化共生⇒「違いを認め、受け入れる」姿勢醸成
- 特別支援教育の充実(※三小は特別支援教育に該当する児童が多数在籍のため推進する必要)
- 個別最適化(合理的配慮)※タブレット学習
- 至誠学園の存在⇒違いを認め、受け入れる風土
- 国際化(外国语教育の充実、国際交流コンシェルジュでの豪州やアメリカとの交流、中国の学校や朝鮮学校との交流、長沼スクール、英語村TGG、)
- 性別で分けない工夫(運動会や体育、通常の授業、言葉を吟味する)学級経営

## 今年度学校経営方針—知徳体一①

教育方針  
教育目標「よく考え実行する子」

- 「主体的、対話的で深い学び」(新学習指導要領の趣旨)を活かした教育活動
- 基礎基本(の学年)の徹底(高学年のタイミング)
  - 読み解き力の育成
  - 国語を研究する柱に、物語文と説明文の読み書き(短作文)、間読書、図書ボラなどの連携)、辞書活用(自学自習の姿勢、語彙力をつける)
  - コミュニケーション能力の育成
  - 各教科でペアやグループ、フリートーク場面を多く設定し、協働的な学びに取り組み、コミュニケーション能力を培う。国語や様々な場面でのスピーチ活動も。
- 個別最適化とともに、品質的・品質的な学び(タブレットのハランド)を活用して、個別最適化の学びを推進する
- 4~6年生で教科担任制を導入し、教員の専門性を活かし、質の高い教育をめざす(音楽、国工、理科の4教科に加え、担任3人で教科を受ける)⇒6教科は担任以外の専科が担任する。

## 学校経営方針のイメージ図

